パワプロクンポケットDSストーリー

プラント40

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パワプロクンポケットＤＳストーリー

【Ｎコード】
Ｎ３０５１Ｒ

【作者名】
プラント４０

【あらすじ】
注意！これらの物語はネタバレです。ゲームを楽しみたい方は見ないことをオススメします。
そして、主人公の名前はすべて「パワポケ」に統一しています。

パワポケ8　入団編

・・・成長を続ける大都会。ここではまばゆい人口の光が一晩中輝き続けている。しかし、どんなに光が増えようと闇が消えてしまう事はない。
　その闇の中に人間以外のものが潜むようになったのはいつからの事だろうか・・・

パワポケ「とうとう追い詰めたぞサイボーグめ！」
サイボーグ「くそー　これでも喰らえ」
そう言うなり、サイボーグは自分の隠し持っていた銃を撃ってきた。
　　ズキューン
しかし、パワポケが持っていた銃が腹辺りに当たった。
パワポケ「よし！容疑者を確保！　至急、救護班をよこしてくれ。・・・・ん？」
　そういいながら、パワポケはサイボーグが持っていた物にきずく。どうやら見た目はカプセルのようだ。
「なんだ、これは。・・・・・情報カプセルか？」
そういいパワポケは本部に戻った。

「君の持ち帰ったカプセルから、ヤツは、大きなサイボーグの組織の一員である事が分かった。
そして、プロ野球の『ホッパーズ』に潜入しているようだ。」部長が言う。
パワポケ「あのサイボーグが、プロ野球のチームに？」
　ホッパーズとは大神モグラーズとして5年前に日本一になったこともある。だが、最近は成績が低迷していて、今年から名前がモグラーズからホッパーズに変更になった。

部長「ヤツの目的を探るためには、その球団に潜入する必要がある。そこで、お前にはホッパーズの選手になってもらう事になった。」
　まぁある程度、何言われるか分かっていたが
パワポケ「野球・・・・ですか？」
そのとき、パワポケには汗を流してバッティング練習をする姿を想像した。
パワポケ「でも、俺は野球のルールですら知らないですよ。」
野球などは、パワポケは生まれてやった事が無い。しかし、
部長「心配するな。　球団の寮に入るまでの一ヶ月で徹底的に訓練する。」
そのとき、パワポケの背中は寒気が走った。
パワポケ「・・・・わかりました」
こうしてパワポケは一ヶ月で徹底的に鍛えられた。
（一ヶ月後）
パワポケは野球のユニフォームをまといホッパーズの寮の目の前に立っていた。
パワポケ「今日からこちらでお世話になります。湯田さんですね？」
湯田とは、メガネをしているのが特徴だ。
湯田「オイラも今年入団したばかりでやんすから湯田君でいいでやんすよ！」
　本人の性格は優しい方なのだろう。
パワポケ「じゃあ、あらためて。よろしく湯田君。」
そうして、パワポケはお辞儀をした。
湯田「よろしくでやんす」　　やんすはクセなのだろうか？
湯田「じゃ、寮の中を案内するでやんす！」
こうしてパワポケの野球生活がスタートした。　　パワポケが待ち受けるのは果たして・・・・

パワポケは湯田に案内されてパワポケの部屋へ送った。
パワポケ「ここが俺の部屋か。　　しかし、プロの球団に潜入

捜査とは妙な事をしたな。ちょっと、今の状況を整理するか。」
（注＊知っているなら飛ばしても結構です）
『本当の仕事は』俺はサイボーグ対策室という政府の秘密機関で働いている。略して『ＣＣＲ』または『サ対室』と呼ぶ。違法サイボーグの逮捕が目的だ。プロ野球チームの選手になったのはあくまでも犯罪捜査のためだ。
パワポケ「しかし、驚いたよ部長が根回しして、俺が入団できるようにしてくれたみたいだったからか、マスコミも無名の選手という事で完全に無視してくれて助かったよ。部長いわく「君は一流の捜査員としてあらゆる肉体的な訓練を受けてきた。その運動能力があれば野球選手になりすますこともできるだろう。」なんて事を部長は言っていたけど・・・中学の時にベースを反対側に回ろうとした俺に、はたして野球選手のふりができるのかな？」
その後のパワポケは仲間にこっぴどく怒られたとか。
（注！今現在の実際のプロ野球では禁止されています）
パワポケ「とりあえず、最初のうちは目立たないように練習していよう。」
暗い顔で自分に問いをした　他人がみたら、独り言をブツブツ言ってる人にしか見えない。

続く

パワポケ8　入団編（後書き）

初めて見た方、他のも見た方。
こんにちは、プラントです。カオスな事に作品が完成出来ません。
よって違う作品を作ってしまいます。フンコロガシのようにコロコロとネタが変わります。
今回はパワポケでネタバレですが、それでも面白いと思ったからです。以上です。よろしくお願いします。

パワポケ8　1年目前半（前書き）

あくまでもネタバレでプラントのルートです。（少しオリジナルも入っています。気にしなくても大丈夫なところなので。）

パワポケ8　1年目前半

1月1週目
今週はランニングを中心に練習をして周りの様子を調べた。
「よーし、そろそろ上がるか。」
パワポケ「なあ、湯田君。今年ホッパーズに入団したのは、自主トレやっているこの4人だけ？」
あまりにも少ないので、パワポケは湯田君に聞いてしまった。
湯田「そうでやんすよ。『めだち　やすな』君と『くらがり　あきら』君、そしてオイラとパワポケ君でやんす。ちなみにあきら君は昔ホッパーズにいたくらがり選手の息子さんでやんす。」
そうだったんだ。あきら君は父親の跡を継ぐために入ったのかな？
めだち「あーあ、早くキャンプに行きたいぜ。そしたら俺の実力も見せられるのに。」
名前からして、目立ちたがり。
あきら「・・・僕は何だか自信がないな。プロでやっていけるかなぁ」
あれ？あきら君は父親の跡を継ぐために入った訳じゃないの？
湯田「なに気弱なこと言っているのでやんす！プロに入った以上は、一軍に上がって活躍するのが目的でやんす。」普通はそうだよな。
普通は
あきら「えっと、それはそうなんだけど。」
湯田「今年入団の4人で、ホッパーズを生まれ変わらせるでやんす！！」
すごいやる気だ野球を愛しているようだ。
パワポケ（・・・見た限りでは、この3人に怪しいヤツはいないな。
・・・だが、油断は禁物だ）
1月2週目
・・・トゥルルル・・・トゥルルル・・・

電話だ

ピッ！

パワポケ「はい、こちらパワポケ。」
「こちら本部の白瀬（しらせ）。どうやらまだ生きているみたいね。」
白瀬ふきこ　彼女はＣＣＲに属する仲間だ。任務中の俺のサポートをしてくれる。
パワポケ「おいおい、連絡ならこちらからすることになってるだろ。」
白瀬「でも、まったく連絡がないからちょっと心配になってね。こっちだって報告書とか、いろいろ作業があるのだから、進展がなくても一応の報告はしてくれないと。」
聞いてるとパワポケが悪いようだ。
パワポケ「・・・ああ、悪かった。」
白瀬「んで、ぶっちゃけ状況は？」
パワポケ「まったく進展なし、だ。そっちは、なにかわかったか？」
白瀬「ぜーんぜんダメ。あのサイボーグ捕まる前に、最近の記憶をあいまいにする薬を飲んだみたい。おかげで、なんにも聞き出せないよ。」
そんな薬初めて聞いたが。
パワポケ「なんだそりゃ？」
白瀬「そんな薬があるんだってさ！　それで、こっちはその薬の出どころを追いかけているところ。じゃ、なにかわかったら連絡するね。」
本部（そっち）がうらやましい
パワポケ「よろしくたのむ。」

ピッ！

パワポケ「そっちに加わりたかったな。」

今週の練習もランニングだ。基本は一番大事だと思う・・・別にいいだろ。

「お、頑張っているな。」
髪の毛がまっすぐに落ちている人がいった。たしか・・・
パワポケ（大神選手だ！ここのオーナーの大神会長の一人息子でたしかホッパーズのエースだっけ。・・・よし、接触してみよう。）
パワポケは大神選手に近寄る。
パワポケ「あ、大神さん！ちょっとお話が」　　バキ！
パワポケは湯田に右ストレートで殴られた。・・・・・何故？
湯田「大神さんは、オイラたちのあこがれのだい先輩でやんす！パワポケ君ごときが、気軽に声をかけていい相手じゃないでやんす！」
そうゆう理由か。
大神「いや・・・ま、いいから、いいから。それで話ってなんだい？」
お、ラッキー
パワポケ「えっと、やっておくべき練習はなんですか？」　　怪しまれないように！
大神「あたりまえだが基礎体力の強化だろう走り込み、遠投、ダッシュあたりを中心にして、軽いノックなんかもメニューとしてはいいだろうな。」
まさにプロの言葉だった。
パワポケ「はい、参考になりました。」
湯田「うおー、オイラもなにか話すでやんす！」
そういった湯田君は顔を真っ赤にしていた。
湯田「ガンダーロボ（ガン◯ムみたいな感じです）の新アニメシリーズをどう思うでやんすか？」　　バキ！
あたりまえだが、大神さんは湯田君を左ストレートで殴った。
大神「真面目に練習してろ！」
怒ったより呆れた顔で言った。

1月3週目

今週は筋トレをしてみた。以外と筋トレ道具が重かったのは驚いたが。

さてさて、場所は変わって寮の帰り道。とうぜんだが、パワポケは一人である。
パワポケ「さあ、帰って野球の勉強でもするか。」
パワポケは当然だが、1ヶ月で野球は鍛えられても、知識はまだまだである。そこへ近くの家から警報が鳴り響く。
パワポケ「ん？なんだか向こうの方が騒がしいな。・・・言ってみよう」
パワポケは警報が鳴る近くまで近づいた。
「月夜に去り行く赤いバラ！」
パワポケ「ん？」
「怪盗『レッドローズ』参上！この『ルナストーンのかけらは戴いた！」
パワポケ「うっわー、恥ずかしい格好！」
なんというか、蝶のマスクをしてマントを着て頭に赤いバラがあるのだから。
おまわりさんA「おのれぇ～！よくもまた！」
間違いなく負けたな怪盗に。
レッドローズ「さらばだ諸君！はっはっはっはー！！」
煙が出てくるそして煙が消える・・・すると、
パワポケ「き、消えた？！なんだ、あの男は？」
目の前の真実に驚いた。ドロンと消えたんだから。
おまわりさんB「先輩～。まーた逃げられちゃいましたね。ははは・・・」
ずいぶんとおきらくな男である。
おまわりさんA「笑っている暇があるんだったら、早く現場を調査して、手がかりを一つくらい見つけてこい！！」
完全に切れてマス。
おまわりさんB「は、はい！！失礼します。」
そう言って一人が現場検証しに行った。・・・しかし
パワポケ「怪盗・・・ねぇ・・・今の時代に怪盗だなんて、愉快犯

か、それともただのバカかどっちかだろうな。・・・あんな変なのにてこずっている警察も警察だよな。・・・・・まあ、俺には関係がないか。早く帰って勉強」　　カツーン
　下で何かにぶつかる音がした。みてみると、
パワポケ「ブローチだ。誰かの落し物かな？とりあえず、拾っておこう。」
そう言ってブローチを拾い寮に向かった。
　1月4週目
　今週はダッシュをやった。・・・・大神さんの教えではないよ。
パワポケ「明日からいよいよキャンプだな。」
湯田「楽しみでやんすね。」
パワポケ（これでようやく球団の選手やコーチの全員と接触する事ができるな。）
パワポケ「大神さんには、もう殴られないようにしないとな。」
すると、湯田君が何言ってるの？の顔になり
湯田「大神さんは1軍キャンプでやんすよ」
まさに衝撃な言葉だった。イコールパワポケの頭で少し考えてしまったのである。つまり、
パワポケ「・・・・・・・1軍キャンプ？」
湯田「エースだから当然でやんす。」
追い討ちをかけた言葉だった。
パワポケ「ホッパーズは1軍も2軍も同じ場所でキャンプするんじゃないか？」
湯田「そんなわけないでやんす。決まる市は同じでも、ホテルから練習場まで、まったく別でやんす。」
泣き面にハチだった。
パワポケ「・・・・・そうなのか？」
いまだに現実を認めない。
湯田「だいたい、それならどうして先週に1軍キャンプが発表されたと思ってたんでやんす？」

泣き面をハチに刺された後、さらに坂を転がりながら落ちるぐらいに死んだ。
パワポケ「・・・・納得した。」
（とりあえず2軍の様子だけでも探ろう）

キャンプ
（自主トレが終わって、ついに球団の人たちと話せるようになったぞ。『目立たないように』みんなを観察しよう）

「おーい、パワポケ！」
パワポケ「はい、なんでしょう水木（みずき）コーチ」
彼はホッパーズのハッピを着ているから少しわかりやすい。
水木「・・・どうも、お前からはやる気が感じられないな。」
ドキッ
水木「練習に必死になってないんだよ！まるで1軍に行きたくないようにも見えるんだがな。」
な、なんてゆう観察力か？まさか不自然だったか？目立たなかっただけに逆に目立ったか？
「おーい　、こっちで守備練習やるぞ～」
水木「ほら、根室（ねむろ）コーチが呼んでいるぞ。新人はもっとシャキシャキ働け！」
ここで挽回しよう
パワポケ「はい、分かりました！」
そして、パワポケは根室コーチの元へ全速力で走った。
水木（ま、あれぐらい言っときゃ少しは本気を出すだろう。）
違う事を言っていた。
根室「よーし、いくぞ～！」　　カン　（↑バットがボールに当たる音）
そして、パワポケは動かない。
2軍のみんな（・・・・あれ？）

目線が痛い。
水木「おいコラ、パワポケ！どうしてマヌケなカカシみたいにボーッとつっ立ってるるんだ！」
パワポケ「へ？」
パワポケは理由が分からない様子。
パワポケ「でも、いまの打球は俺の方に飛んできてない・・」
湯田「ベースカバーに入るでやんす！」
突然湯田君が血相を変えてきた。
湯田「アンタ、いったい何年野球をやっているでやんすか！」
理由がやっと分かりマズイと思った。とりあえずごまかそう
パワポケ「あ、ああ？！そうか、そうだった」
水木「まったくなんなんだ今年の新人は！」
コーチなどに目をつけられたみたいだった。
パワポケ（ちゃんと野球の勉強をしとかないとな）
ブルーな顔でそう考えた。

今週は体力がないので休んでみた。・・・・キャンプ1日目で休むってどうかと思うが。
2月2週目
カキーン！
パワポケ（よし、俺が捕る！）
そう思い、パワポケは走って捕るすんぜん、目の前にあきら君がいて、ハデにぶつかった。
パワポケ「はっ？！あれ、俺は・・・」
パワポケが目覚めたのはベットの上だった。
「ここは、球団の医療室。ちなみにボクはスポーツドクターのエーベル高座（こうざ）です。」
パワポケ「あ、どうも。」
エーベル「そして、これがイノシシの雪ちゃん。」
雪ちゃん（ぶひぶひ♪）

何故？イノシシがいるんだ？
パワポケ「・・・ええと・・・」
そもそも、何でここにいるんだっけ？
エーベル「アナタは練習中に他の選手と激突して一時的に意識を失っていたようです。」
あ、つながった
パワポケ「・・・なるほど」
エーベル「ところあなたは・・・」
パワポケ「えっ？あの・・・なにかおかしことでも？」
もしかして正体がばれたとか、そんなのだったらマズイな・・・
エーベル「いいふくらはぎをしてますね。」
こけたくなるぐらい違った。
パワポケ「は？」　　自分でもおかしな声が出た事が分かる。
エーベル「しかし、無理は禁物です。いくらいいふくらはぎを持っていても無理な練習や怪我で体を壊してしまっては元も子もありません。　　ね、雪ちゃん？」
雪ちゃん「ぶひぶひ」
なぜイノシシ話かけるんだろう。
パワポケ「はぁ・・・そうですね。」
パワポケ（やれやれ、俺が捜査官だとばれたのかと思ったよ。）
パワポケ「ところで、何でイノシシがいるんですか？」
エーベル「雪ちゃんです。何でってイノシシって美味しいじゃないですか。」
雪ちゃん「ぶひ～～！！」
パワポケ「え、食べる目的ですか？」
エーベル「ウソです。はい、ではお大事に」
　練習？休むしか無いじゃん。
「なんだか、今年の新人選手は元気があって活躍しそうだなぁ。」
ん？誰だろう

パワポケ「あっ、どうもパワポケです。今年からお世話になります。」
「オレ、本田（ほんだ）　幸太郎（こうたろう）です。あー、たしかパワポケさんって、俺より年上のはずだよね。だから、『本田』君でいいよ。」
パワポケ「じゃあ、本田君で。あらためて、よろしく。」
本田「よろしく。ところでパワポケさんて・・・２年前の夏の甲子園高校野球大会で『みちのく牛若丸』って言われたやつ知っている？」
パワポケ「えっ？・・・・・さぁ。」　　知らないものは知らない。
本田「ええっと、じゃあ・・・『去年この球団に俊足と堅実な守備、シュアなバッティングに定評あり』って言われて入団してきた選手知っている？」　　なんで本田君は慌てるんだ？
パワポケ「うーーん。すみません、わかりません。俺、そういうところって詳しくないので。」
本田「そうかぁ・・・・・ごめんごめん。まぁ、とにかく頑張ろうよ。・・・はぁ、オレなんかどうせその程度だよなぁ。」　　え？
パワポケ（自分の事を言っていたのか。）
次に来たのは（ドスドスドス・・・）って音と共に来た。・・・・そしてデカイ。１９０あってもおかしく無いだろう。
「おおい、パワポケ！頑張っているか？」
パワポケ「はい・・・ええと、『石中』さんでしたよね。」
石中「ああ、確かにオレは石中だけど？・・・なんだよ俺ってそんなに印象薄いのか？」　　逆です。
パワポケ「いえ、そんなことは・・・」
石中「ところで『ハヤシ』見なかったか。」
パワポケ「ああ、ハヤシ先輩なら湯田君を捕まえてあっちにいきましたよ。ほら、２人ともあそこに」
湯田「・・・・・・・・・・それは、なんでやんす？」
ハヤシ「だからさ、これが最新のギャグなんだってば。頭悪いなお

前。」
湯田「説明しなきゃいけないのはギャグとは言えないでやんすよ。」
石中「あのヤロー、またサボっているな。プロレス技でちょっと教育してやるか。ありがとよ、パワポケ」　　そして去った。
プロレス技？危険がともなうのでは。
パワポケ（この３人が寮の先輩か・・・）
２月３週目
今日は２軍のみんなと総合練習をした。
２月４週目　　の朝
ドガーン！
パワポケ「わっ！・・・何で爆発をした夢を見たんだろう・・・まったく、先が思いやられるな。」
今週キャンプ最後の練習も総合練習だ。
「どうも、２軍のキャンプの方はこれと言う者はいないねぇ。」
とりあえず仕上がりを見ますか？」
「うん、ぜひお願いするよ。」
湯田「ややっ、『大地』監督のお出ましでやんす！ここで活躍して１軍デビューでやんす！」
パワポケ（どうやら、テストで俺たち２軍の実力を調べるつもりか。）
テストは打球のようだ。
評価が出来なかった。
大地「・・・次の選手を。」
「・・・はい」
野球仙人「パワポケよ頑張るのじゃ」
３月１週目
パワポケ「はぁ、やれやれ。なんとかキャンプも無事に終了したか。」
トゥルルル・・トゥルルル・・・・

電話だ。

ピッ

パワポケ「はい、こちらパワポケ。」
白瀬「お帰りなさい。キャンプどうだった？」
パワポケ「いや、ばれないようにするのと毎日の練習でクタクタだよ・・・」（あれ、携帯のこの表示・・）「本部からの電話じゃないな。外からかけているのか？」
白瀬「ああ、そうじゃないの。ヒマだから電話しただけ。」
パワポケ「・・・・なんだって？」
白瀬「なんてね、いまのは冗談だよ、冗談。あんたの心理カウンセリングを担当することになったから、その連絡。」
パワポケ「カウンセリング～？」　何故に？
白瀬「うん、そう。長期の潜入捜査でストレスたまって任務に支障が出ないようにするの。だから、悩みがあるのなら自分の中で抱え込んでないで、なんでもこのお姉さんに相談してね。」
パワポケ（というか、・・・お前、年下だよな。）
白瀬「通常連絡時のとはコードが違うからよく覚えといてね。じゃ、お電話待っていまーす。」

ピッ！

パワポケ「カウンセリング・・・・・ねぇ。本部も何を考えているんだか。さて、チームにも溶け込んだし、そろそろ動いてみるか。

パワポケ8　1年目前半（後書き）

中途半端なところで前半終了です。すみません、続きを楽しみにしといて下さい。　ｂｙプラント

パワポケ8　1年目　中篇（前書き）

本当にやっと久しぶりにかけました。　長い間すみませんでした

パワポケ8　1年目　中篇

3月1週目
今日は普通に筋トレをした・・・意外と重いのにいつも驚かされるのはなんでだろう。
場所は変わって食堂
「はいはい、ご飯ですよ～」
ん？
パワポケ「あれは、誰？」
と言うか、あんな美しい女の人っていたっけ？
湯田「ああ、寮で働いてる小野映子（おのえいこ）さんでやんす」
小野さん・・・かぁ
パワポケ「ふーん。　キャンプも終わったし、これから寮生活も本格化するわけか」
ん？　あそこで座っている人って
パワポケ「あれ、どうして水木コーチが寮でお茶を飲んでいるんだ？」
たしか、コーチ達は違うところで食べるような・・
湯田「ああ、選手じゃなくても独身のコーチ陣は寮にすんでいるでやんす」
パワポケ「へぇ、そうだったのか」

3月2週目
今週は疲れが目立つな・・休みをとっておこう
トゥルルル・・・・　トゥルルル・・・・・・　ピッ
白瀬「はい、こちら本部」
パワポケ「パワポケより定時連絡・・・・・まったく変化なし。・・なあ、この球団からはたぶんなにも出てこないぞ。いいかげんこの潜入捜査は打ち切ったほうがいいんじゃないか？」

いいかげん野球ばっかで任務を忘れるかもしれないし
白瀬「でも、その判断をするのは部長でしょ。　私たち下っぱは、命令に従うのが　お・し・ご・と！」
「・・・おい、白瀬。その電話はパワポケか？」
　どこからか急に現れたのは
白瀬「はい、灰原隊長」
　影がうすいかもしれない、白瀬たちの隊長である
灰原「替われ」
白瀬「はい」
灰原「　パワポケだな？」
　あ、この声は
パワポケ「あ、隊長。　いま話していたんですが・・・」
灰原「すぐにテレビをつけろ」
パワポケ「え？　はい」
　言われたとおりにテレビを付けると
ニュースキャスタ「・・・爆発事故で・・・時限爆弾が・・・負傷者多数・・・」
パワポケ「なんだこれは？！」
　場所は、なんか見覚えある場所だな
灰原「今から１０分前、球場に向かう『ホッパーズ』の選手のバスが破壊された」
パワポケ「えっ！？」
　つまり、それって
灰原「どうやら、お前の潜入捜査はあ長引きそうだな」
　違う場所では
大地監督「信じられません！　私の選手がテロの標的など・・・なんと卑劣な犯罪だ！」
　血糖値ががんがんあがる位の怒りだ
大神会長「大地監督。　キミのショックも分からんでもない。　だが、事実をまず見なければならん。　ホッパーズの１軍選手の多く

が負傷しそのうち何名かは、今シーズン中の復帰すら、あやういらしいな」
大地「はい・・・死者が出なかったのがせめてもの救いです。」
　そして、血糖値が下がる大地監督
会長「まあ、世間もコミッショナー（最高責任者と考えて下さい）もこの恐ろしい不幸には同情的だ。いろいろと優遇処置があるだろう。　ただし、まず今を乗り切らねばならん」
大地「はい。　負傷者は１５人ですから、同じ数の二軍の選手を昇格させて対応します」
会長「・・・いいかね、大地君。　観客はドラマを求めている。二軍の選手ばかり出してずるずる連敗するようでは、わが大神グループの名に傷がつく」
　世の中厳しいってことだ
大地「お言葉ですが、大神会長。　このような逆境の下であろうと、私は優勝を目指さないような指揮をするつもりはありません」
会長「ふふ、たのもしいな。　期待しているぞ」
大地「では、失礼します」
　スタスタ・・・・・・
会長「・・・しかし、犯人は何者だろう」
　すると音もなく現れたのは
ボディガードＡ「大神グループ・・・いや、大神会長に恨みを持つ者では？」
会長「ことはそう単純ではない、ではなぜ、私の息子が乗っている日のバスは狙われなかったのかね？」
ボディガードマン「あ、そういえば・・・ご子息（しそく）は今日は登板の予定がなかったのでご無事でしたね」
会長「あるいは、そのことを知らなかっただけかもしれんが、まあ、楽しみなことだ」

３月３週

水木「すでに監督からお話があったとおもうが今後、一軍と二軍の選手とは設けず調子のいい奴から一軍で使っていく。　とりあえず、石中と林は今日から一軍に昇格だ」

そして・・・

湯田「うーーーーーん・・・」

パワポケ「どうしたんだい？　湯田君」

湯田「いや、複雑な気分でやんすよ。　事故の影響で一軍選手がごっそりいなくなったから、すぐにでも一軍にいけそうでやんすよね」

パワポケ「ああ、悲惨な事件の影響だから、喜ぶわけにもいかないよな」

湯田「いや、喜んじゃダメというんじゃなくて喜べないでやんす。　オイラの実力が評価されたわけじゃないでやんすからね」

パワポケ「たしかにあの事件のおかげで試合に出れた、なんて言われるかもしれないよな。　でも、だからといって「一軍に行け」って言われたら辞任するのかい？」

湯田「えっ？！　・・・うーん、そんなもったいないことはできないでやんす」

パワポケ「それなら、一軍の試合に出たときに実力を見せればいいじゃないか。　それなら誰も文句を言わないさ」

湯田「まあ、そうでやんすけどね。・・・問題はその実力に・・自信がないことでやんす」

・・・・・・・・・・・・・・　ここの空気を凍らせたよ・・湯田君の一言で・・・

パワポケ「・・・ああ、なるほど・・・・・・」

俺の顔もブルーなのかもしれないな

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3051r/

パワプロクンポケットDSストーリー

2011年11月18日06時50分発行